

## 吉田泉殿・自然学セミナー第10回のお知らせ 第2号 2010-12-11

### 「人間とは何か：ブータンを旅する」

#### 京都大学ブータン友好プログラム第2訪問団報告会

とき：2011年1月16日、日曜日、1300-1800、懇親会 2000 ころまで

ところ：京都大学吉田泉殿（西部構内プールの南、入り口は今出川鞠小路下の東側）

「地球社会の調和ある共存に貢献する」、それが京都大学の掲げる理念です。「人間と自然」という二分法と訣別し、人間中心の世界観から脱して、人間を含めた「自然」をどのように理解するべきか。本セミナーは、「自然そのまると全体」を捉えるなかで、「人間とは何か」という人間の本性についての深い理解をめざしています。吉田泉殿の「堀りごたつと畳」の部屋で、寝そべってくつろぎながら、自由に意見を交換する場です

「ブータン」を引き続きテーマにしました。「人間とは何か」をブータンという国を契機に考えます。主な話題は、11月下旬に実施した京都大学ブータン友好プログラム第2訪問団（橋本隊）の報告会です。3日間の田舎道のトレッキングがあり、ポヅカ村でオグロヅルの飛来を見てきました。ブータンは、大きさは九州程度、人口は島根県の約70万人。チベット仏教を国教とする立憲王政の国です。インド平原の続きの標高100mから7541mの未踏峰ガンケルプンツムの頂きまで7000mを超える高低差があり、多様な生物の垂直分布をみることができます。また最近ではGNPにかわるGNH（国民総幸福）の理念の提唱でも知られています。ブータンと京大の最初の縁は、1957年晩秋に第3代国王のケサン・ワンチュク王妃殿下が京都にいらした際に、桑原武夫や芦田譲治らが歓待したことに始まります。これが契機となって翌1958年に中尾佐助による日本人初のブータン調査が実現しました。その中尾の勤務する大阪府立大で彼の学生だった西岡京治が1964年にJICAの農業指導員として派遣され、永く滞在してダショーの称号を得ています。また1969年の桑原武夫・松尾稔の調査隊や、1985年の堀了平の率いた京大山岳部のマサコン峰登頂など、京都大学からは連綿と学術調査隊がでています。

しかし近年は、横のつながりが希薄で、縦糸となる歴史的経緯についても忘却されているきらいがあります。今回は、国の大小を超えてイコールパートナーとしての日本とブータン、それをつなぐ懸け橋としての京都大学を意識しました。そのためには、ブータンを知っている人も、知らない人も、ともに重要だと考えます。なお、第3訪問団（岡田隊）が1月23日、第4訪問団（小林隊）が3月24日に出発します。第3訪問団の報告会と次年度以降の展開の相談を兼ねて**次々回は、2月12日（土）か26日か3月5日に、自然学セミナーを開催します。**なお参加費として千円を徴収します。懇親会費は不要です。なお、酒肴の差し入れがあれば歓迎します。



### 1、当日のスケジュールと話題提供者

とくにタイムテーブルは設けません。定刻に始まります。最初に短く自己紹介します。話題提供5題です。途中で長い休憩（30分以上）を挟みます。ご歓談ください。

司会と解説：松沢哲郎（京大霊長類研究所）京都大学ブータン友好プログラムと今後の展望

話題提供1：橋本学（防災研究所）、藤澤道子（野生動物研究センター）、山本真也（霊長類研究所）、ブータンを旅して考えたこと：第2訪問団のリレー報告

話題提供2：明和政子（教育）ブータンにおける子どもの発達と障害の概念について

—（休憩：1500-1530）—

話題提供3：坂本龍太（総合地球環境学研究所）カリン高齢者健診ことはじめ

話題提供4：吉川左紀子（こころの未来）互恵関係を作る：ブータンで考えたこと、第1訪問団からの補足報告

話題提供5：川本芳（霊長研）ブータンの在来牛資源の遺伝学的評価—タシ・ドルジ氏との共同研究から

—（懇親会：1800-20:00）—

コメンテーター：月原敏博

### 2、討論参加者：確定しだい名前を挙げます。

尾池和夫（国際高等研）、奥谷美穂（府立大）、中嶋智之（経済研）、仲野真由（日東電工）、新野正人（霊長研）ほか  
陪席学生：渡邊美穂子（同志社M1）、仲澤伸子（理3）、勝野史子、池田彩夏、谷口貴昭（農1）

3、連絡先：松沢哲郎、[matsuzaw@pri.kyoto-u.ac.jp](mailto:matsuzaw@pri.kyoto-u.ac.jp) 携帯：080-2623-3705。吉田泉殿は当日朝9時から開門。午前中の10-12時に、第2回学生アリーナを開催します。栗原洋介「ブータン報告」ほかの話題です。